

もみ殻クン炭を世羅高生とハウス内に  
散布する鈴木さん（左から2人目）



## 農地にバイオ炭混ぜCO<sub>2</sub>削減

世羅町のプロジェクト

### 国のJ-クレジット取得目指す



世羅町や住民たちでつくる「脱温暖化プロジェクトせら」は、もみ殻を炭にしたバイオ炭「もみ殻クン炭」を農地に混ぜて二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の削減につなげ、国の制度であるJ-クレジットの取得に挑む。世羅高（本郷）の実習農場に5日、プロジェクトのメンバーたちが作ったクン炭をまいた。

J-クレジットは、省エネや森林管理などによ

って削減したCO<sub>2</sub>をクレジット（排出権）として国が認証する制度。プロジェクトのメンバーで、取得を提案した叡啓大2年鈴木サマンター明さん（20）は広島市中区や、世羅高農業経営科の2年生たちが、クン炭約10トンを、アスパラガスなどを植える予定のハウスやブドウの木の根元に散布した。今後、生育状況や生育への影響を調べる。

今秋、コメの収穫後に出るもみ殻からクン炭を作り、農地に混ぜる予定。土壌改良やCO<sub>2</sub>削減効果のデータを集め、2027年度に国への取得申請を目指す。取得したクレジットを企業に販売することで、脱炭素社会に貢献し、持続可能なモデルの構築を狙う。

鈴木さんは「J-クレジットを活用して企業と協力し、地域団体からでも持続可能な社会の実現に近づける一歩になることを証明したい」と意気込んでいる。

（藤井智康）

プロジェクトのメンバーたちが作ったクン炭をまいた。

J-クレジットは、省エネや森林管理などによ